



2025春闘を職場・地域から闘おう！ ④

満額回答は充分可能だ！

2025春闘第3回団交

本部は本日、2025年度賃金引き上げ、夏季手当及び諸要求に関する申し入れに対する第3回団体交渉を開催しました。今回は、ベア、定期昇給、夏季手当、各種手当などについて議論しました。

まず本部は、今期の第3四半期の決算が増収・増益であったのは、社員の努力によるものであることを会社に確認させました。

ベアについて、本部は「物価高騰は止まらない。昨年のベアは、世間相場を下回った。しかも回答は、高く見せかけるイカサマ表記であった。すでにB級地の調整手当を5,000円上げる提案がされたが、これを今回の賃上げの回答の中味に入れることはやめて、純粋なベアの回答を行うべきだ。生活は年々苦しくなり、家計を直撃している。ベア18,000円は最低ラインだ。満額回答は可能だ。会社は毎回、『厳しい厳しい』と言うが、そんなに厳しいならリニアを中止せよ」と主張しました。

会社は「当社の賃金水準は高い。ビジネス客の戻りはコロナ禍前の水準まで回復していない。今後の経済情勢などを判断して決めたい。リニアは当社の使命だ」などと、賃金抑制のための言い訳に終始しました。

定期昇給について、本部は「経験を積めば賃金上がるのが本来の姿だが、逡減や昇格の頭打ちがある制度は、社員間格差を拡大するばかりではなく、昇格できなかった社員の生活を破壊する制度である。格差を付ける制度は誤りだ。全ての社員に6,000円の定期昇給と逡減制度を撤廃せよ」などと主張しました。会社は「賃金差別の制度ではない。モチベーションを持ってもらうための制度だ。努力した者は報われる制度だ」などと、賃金格差を肯定する回答に終始しました。

夏季手当について本部は、「今期は過去最高の利益を上げようとしている。3.5ヶ月でも少ないくらいだ。プラス10万円は、繁忙を乗り越え、努力した社員への還元であり、満額回答は当然だ。基本給が社員の半分である専任社員には、更に5万円は当然だ」と主張しました。会社は、ベアの考えと同様な主張を繰り返すのみで、全ての項目について対立しました。